

# 宮城県考古学会連絡紙

第67号

2016年9月10日発行

〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1

東北大学大学院文学研究科考古学研究室気付 宮城県考古学会事務局

## 2016年度 宮城県考古学会総会・研究発表会報告

5月15日(日)に、仙台市博物館において、2016年度宮城県考古学会総会・研究発表会を以下の日程で開催しました。

★総会 10:00～10:50

田中 則和会長から開会の挨拶があり、つづいて議長団の選出により議長に二瓶 雅司氏、副議長に米城 百合子氏、書記に五十嵐 愛氏が選出され、5件の議事が行われました。

議案第1号 2015年度の事業報告について

議案第2号 2015年度収支決算報告(案)

議案第3号 2016年度の事業計画(案)について

議案第4号 2016年度収支予算(案)

議案第5号 役員改選(案)について

以上の各議案について担当幹事から説明があり、審議の結果、議案第1号から第5号まで承認されました。

★研究発表会 10:00～10:50

特集『復興関係調査で拓かれた地域の歴史2 南三陸地域の中世社会—新井田館跡を中心に—』

趣旨説明 宮城県考古学会東日本大震災対策特別委員会  
成果報告「南三陸町新井田館跡の発掘調査成果」宮城県教育委員会 村上 裕次氏

コメント1「宮城県内の城館からの新井田館跡の位置づけ」  
宮城県考古学会 佐藤 信行氏

コメント2「朝日館跡からみた新井田館跡」 宮城県考古学会  
田中 則和氏

コメント3「中世本吉・気仙地域の論点—歴史学の立場から—」  
東北学院大学 七海 雅人氏

一般研究発表

①「東北地方の縄文時代晩期前半における岩版の生と性」  
鹿又 喜隆氏

②「陸奥国府域における掘立柱廂付建物の特質」 高橋 透氏

※参加者は延べ 150 名あった。

## 2016年度事業計画

1. 2016年度総会・研究発表会 前項参照

2. 宮城県遺跡調査成果発表会

日時: 12月予定 会場: 未定

3. 会誌『宮城考古学第18号』の発行と『宮城考古学第19号』編集作成

4. 連絡紙の発行

5. ホームページの運営

6. 役員会の開催

7. 『大地からの伝言—宮城の災害考古学—』刊行 2,000部  
会員無償頒布、希望者有償頒布

8. 後援等の実施

9. 研究部会の活動への支援

※詳細については本会 Web サイトに掲載しています。

## 2016年度 宮城県考古学会役員名簿

2016年度は宮城県考古学会の役員改選時期になっております。第10期(2016・2017年度)の役員・代表幹事の名簿をお知らせいたします。

会長 : 佐々木 和博

副会長 : 藤沢 敦(東北大学総合学術博物館)

幹事長 : 長島 榮一(仙台市教育委員会文化財課)  
(総務)

代表幹事: 菅野 智則(東北大学埋蔵文化財調査室)

高橋 純平(仙台市教育委員会文化財課)

庄子 裕美(仙台市教育委員会文化財課)

(企画)

代表幹事: 福山 宗志(涌谷町教育委員会)

茂木 好光(佐沼高等学校)

佐藤 佳奈(石巻市教育委員会)

佐藤 優(大崎市教育委員会文化財課)

堀 哲郎(栗原市教育委員会)

佐藤 洋一(蔵王町教育委員会)

佐藤 秀一(角田市教育委員会)

(会誌)

代表幹事: 古田 和誠(宮城県教育委員会)

川又 隆央(岩沼市教育委員会)

初鹿野 博之(宮城県教育委員会)

大久保 弥生(大崎市教育委員会)

(連絡紙)

代表幹事: 古川 一明(東北歴史博物館学芸部)

鈴木 朋子(亶理町教育委員会)

関根 章義(仙台市教育委員会)

森田 義史(松島町教育委員会)

鈴木 啓司(宮城県教育委員会)  
小泉 博明(仙台市教育委員会文化財課)  
廣谷 和也(宮城県多賀城跡調査研究所)

〈監事〉

高橋 守克  
太田 昭夫

### シンポジウムのお知らせ

東北学院大学アジア流域文化研究所 公開シンポジウム

「栗原市伊治城跡から読み解く東北古代史」

日時:平成 28 年 9 月 19 日(月) 10:00～16:30

会場:栗原市文化会館(アポロプラザ)

入場無料・申込不要

〈講演〉

・「発掘調査成果からみた伊治城と古代栗原郡」栗原市教育委員会 安達 訓仁

・「律令国家の拡大と城柵構造—伊治城跡と桃生城跡の成果を中心に—」宮城県文化財保護課 村田 晃一

・「鳥矢ヶ崎古墳群と伊治公一族」東北学院大学 辻 秀人

・「伊治城をめぐる交通と征夷」東北大学史料館 永田 英明

・「律令国家の北縁部、大崎・栗原地方」東北学院大学 熊谷 公男

〈討論〉

1、伊治城の成立過程と全体像

2、三十八年戦争と伊治城

3、律令国家と蝦夷社会

〈問合せ先〉東北学院大学アジア流域文化研究所

Tel:022-264-6370

E-mail:ryuiki@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

Web:<http://www.ipc.tohoku-gakuin.ac.jp/~hicarb/sy>

### 会誌「宮城考古学」への投稿案内:原稿募集中です!

会誌『宮城考古学』第 19 号(2017 年 5 月発行予定)への投稿を募集しています。

投稿は事務局からの依頼原稿を除き、原則として宮城県考古学会会員に限ります。共著の場合は著者のうち 1 人は宮城県考古学会会員であることを条件とします。

原稿締め切りは 2017 年 1 月 31 日です。投稿希望の方は 2016 年 11 月 30 日までに、予定ページ数や概要などを下記のアドレスまでお知らせください。現行の採否は翌年 2 月末までに執筆者に連絡します。原稿多数の場合、次回掲載となることもありますので、ご了承ください。

〈書式について〉

①A4 版横組(縦 297mm×横 210mm)。版面は縦 233mm×148mm。

②本文は 10.5 ポイント・明朝体で横書き・45 字×35 行。註・引用文献は 9 ポイント・明朝体で横書き・47 字×48 行。ヘッダやフッタなどは記載しないでください

③論文:本文、挿図、写真、表などを含め、18 頁以内。

④研究ノート:試論、予察、着想などの短論文。12 頁以内。

⑤報告・速報:注目される発掘調査の報告や測量調査など。8 頁以内。

⑥資料紹介:8 頁以内。

⑦抜刷部数は最大 100 部(進呈 30 部を含む)。

〈連絡先〉宮城県考古学会会誌幹事会 代表 古田和誠

※個人情報につき連絡先削除

### 博物館 展覧会・イベント等情報

【東北歴史博物館】

◆特別展(日本人とクジラ)……10 月 8 日(土)～12 月 4 日(日)

縄文時代以来の日本人とクジラとのかかわりについて展示

◆テーマ展(修復された被災文化財—小梁川・大梁川遺跡—)～平成 29 年 2 月 26 日(日)

東日本大震災で被災後、修復を終えた資料の展示

今回は縄文時代中期の七ヶ宿町小梁川・大梁川遺跡の土器群を展示

◆館長講座(縄紋いろは語り)鷹野 光行館長

会場:東北歴史博物館 3F 講堂、時間:13:30～15:00、受講無料・申込不用

「第 8 回 最古の土器の追求」……9 月 10 日(土)

「第 9 回 開発の激化と調査の激増」……9 月 24 日(土)

「第 10 回 自然科学の手法の考古学への寄与」…10 月 8 日(土)

「第 11 回 縄紋時代の環境」……10 月 22 日(土)

「第 12 回 縄紋土器 器形と用途」……11 月 12 日(土)

「第 13 回 縄紋土器の製作」……11 月 26 日(土)

### お知らせ

宮城県考古学会では『大地からの伝言—宮城の災害考古学—』を発刊し、会員には無償配布し、今後、県内の小中学校・高校にも配布する予定です。

また、希望者には有償(一冊 500 円)で頒布いたします。詳細は本会 Web サイト(<http://www.m-kouko.net/>)をご確認ください。

### 情報・寄稿などをお寄せ下さい!!

考古学に関する情報や寄稿、会員通信等をお寄せ下さい。また、連絡紙の愛称や内容、取り上げて欲しいこと、提言などご意見ご要望もお待ちしております。

本会 Web サイト(<http://www.m-kouko.net/>)では、本会連絡紙のほか、お寄せいただいた情報を随時掲載いたしております。発掘調査情報、学会、イベントなど考古学に関する情報をお寄せください。

〈連絡先〉古川一明(連絡紙代表幹事)

E-mail:[info@m-kouko.net](mailto:info@m-kouko.net)(宮城県考古学会)